

施政方針と今後の市のあり方について

吉田 貞子



〔質問〕新たな具体的戦略「人・暮らし・環境が活きる交流拠点都市」は、「4万人都市復活大作戦」という定住人口促進策から交流人口促進への方針転換か。

〔答弁〕【市長】4万人には残念ながらならなかったが、人口減少の歯止めには作用した。4万人都市復活大作戦の施策や事業を精査の上、第五次総合計画の目標に分類した。

交流人口を100万人にするためには、広域観光連携、特色ある観光ルート化の推進、他分

野との連携、国際観光振興による海外からの観光客拡大、特色ある観光の創出にも取り組んでいかなければならない。

〔質問〕消防団協力事業所認定により、消防団組織強化がどのように図られるのか。

〔答弁〕【市長】会社員が会社に勤めながら消防団員であることによつて、賃金、昇進、昇給などで不利に扱われないように配慮いただく。さらに、火災や災害時の消防団活動を最優先として配慮いただく。また火災・災害時には、資材や所有地などをその活動や対応のために提供、協力いただける会社を認定することで、本市の消防・防災力の充実強化を図

ろうとするもので、あわせて、サラリーマン団員が増加すること、団員不足の解消を図っていく。

〔質問〕今後の市のあり方として、第五次総合計画基本構想にそつて、10年後の将来像をどう描いているのか。自治基本条例を制定して実現を目指す考えはないか。

〔答弁〕【市長】「市民が共に支え合いながら、生きる力を育み、ふるさと白石に誇りをもてるまち」が10年後のあるべき姿だと思つて、条例を制定しなければ何もし出来ない訳ではなく、どれだけ自主性を持つかが大きい。成功例を検証していく。

【その他の質問】  
○企業誘致について  
○公立刈田総合病院の経営健全化について  
○6次産業化の推進について など全15項目

タブレットPC等を使った当市のPRについて

山田 裕一



〔質問〕平成23年度白石市一般会計予算の主要事業として「雇用・地域経済対策」を掲げ、デジタルコンテンツを活用したまちづくりや教育環境の充実、さらには、当市をPRするアニメーションを作成し、観光・地域振興・農産物のブランドイン

グや新規販路拡大を図ろうとしている。これらの事業を市外にPRするツールとして「iPad」や「GALAXY Tab」などのタブレットPCを積極的に活用してはどうか。

去る2月28日、メディアインタラクティブは、「iPad」などのタブレットPCの利用に関する実態調査」を発表

した。この中で、「操作性の向上」や「携帯性」を挙げる人が多く、「動画でのプレゼンテーション」がスマートフォン、Webでの展開が説明しやすくなった」といった意見も多くみられ、仕事効率が良くなったと考える結果が出された。

そこで、タブレットPCを行政としても積極的に活用することにより戦略的な企業誘致や観光宣伝などの交流人口拡大に寄与できると考えるが市長の所見を伺う。

〔答弁〕【市長】タブレットPCを使った当市のPRについては、大きな夢があるし、大きなツールになると思っている。まずは1台購入を検討し、当市PRのコンテンツに持っていきたい。

〔質問〕当市は、高度電子産業集積地であることから市長が企業訪問時に名刺だけでなくタブレットPCを持っていきBGMの入った動画で当市をPRできれば大きな武器になると考える。そこで1台購入し、使い回しするのではなく、もう少しまとまった台数購入を検討していただきたい。もう一歩踏み込んで最新のツールを企業誘致や観光PRに積極的に活用すべきと考えるが。

〔答弁〕【市長】なぜ1台かという使いこなせなければ意味がない。企業立地のみならず各課でどういった分野で使えるかも検討しながら大いに活用していきたいと思つている。まずは1台でスタートし、必要とあれば当然、検討していきたいと思つている。